

天理高校 対 京都府立朱雀高校

■審判 球審:家田 塁審:伊藤 小林 渡辺登

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
氏 家 陣 也	8	37	3	9	8	1

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
辰 己 優 貴	7	23	1	5	0	0
本 間 裕 悟	2	7	0	3	0	0

準決勝の第2試合、この日の第4試合は、奈良県の天理高校と京都府立朱雀高校、近畿勢同士の対戦となった。天理高校は1回の裏、2番奥村の一塁強襲安打、3番山本の右前打と続き、4番小川は四球で一死満塁となる。5番吉岡の当たりは一塁前に弱いゴロとなるが、打球を処理した朱雀投手の一塁への送球が低く、それが右翼線からファールゾーンを転々とする間に走者一掃となり3点を先取。打った吉岡も三塁に進んだ。吉岡は次打者の打席で投手のワイルドピッチをあげ、生還してこの回計4点を上げ、天理高校が試合の主導権を握る。天理は3回にも1点を追加するが、朱雀はなかなか得点権を作れないに至らず、前半戦は天理高校のペースで進んだ。朱雀高校のエース氏家の中盤になって立ち直り、4回以降は天理高校のエース辰巳この投手戦の様相を呈していった。朱雀は8回表、1死後7番佐古田は天理捕手の打撃妨害で出塁し、次打者の三振の間に二盗を敢行。この回から代わった天理の左腕投手本間を攻めて得点圏に走者を送るが、思うように点が入らない。結局4回以降は両チームとも得点が入らず、5対0で天理高校が決勝戦に進出した。朱雀高校のエースは伸びのある速球を中心とした力のあるこもったマウンドさばきであったが、最後まで試合の主導権を握ることはできなかった。